

# 東京湾岸言語地図 (木更津・君津・富津市) [1986-89]

## — 第1分冊 —

佐々木 英 樹

The Linguistic Atlas of the Tokyo Bay Area/Kisarazu,  
Kimitsu & Futtsu Cities, Chiba Prefecture, Japan (1986-89)

—— Fascicle 1 ——

Hideki SASAKI

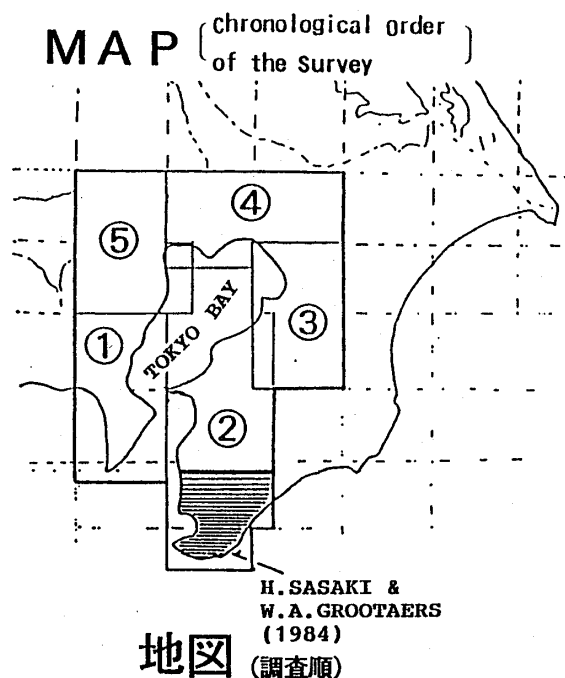
### ABSTRACT

The present paper, as the primary fascicle, presents firstly the list of our informants, secondly our fieldwork guidelines, and finally some handouts used for fieldworkers in class which were intended to make the guidelines above more effective.

The present report concerns the survey of Chiba areas (② on the map) facing the Kanagawa ones (① on the map) across Tokyo Bay. That region of Chiba (②) borders on the southernmost parts of the 'Boso' Peninsula (the horizontally shaded part on the map). The dialect atlas of the latter was already published by the late Prof. W. A. Grootaers and the present writer in 1984. 'Boso' is the old name for Chiba.

Accordingly, it is a matter of course that we should get interested in how linguistically related the Chiba region (②) will be to Kanagawa (①) on one hand, and how distinct it will be from the southernmost 'Boso' (shaded part) on the other. We should also be curious as to what role Tokyo Bay has played in the process of dialect diffusion between Chiba and Kanagawa Prefs. These studies make an important contribution to dialectology. I will begin to present our results in the next fascicle.

My profound gratitude goes to all the people who kindly cooperated with us in any stage of our survey.



本編は千葉県木更津市、君津市、富津市の東京湾岸地域を対象として4年間調査したものの報告書・第一分冊です。従って、次のような内容になっています。

- 1 回答者（インフォーマント）等一覧表
- 2 東京湾岸言語調査の手引
- 3 東京湾岸言語調査の手引・付録1—3

1 回答者（インフォーマント）等一覧表について。インフォーマントの住所は調査票の表紙に詳細に記録してありますが、ここでは簡略化しました。その内訳は下記の通りです。

袖ヶ浦町(19)+木更津市(118)+君津市(69)+富津市(183)=計389名

この中で、袖ヶ浦町は本来地図の③（前頁の地図参照）の調査地域に属するものですが、地形上の理由で②（前頁の地図参照）の調査地域に組み入れたものです。なお現在は袖ヶ浦市になっています。しかし、ここでは調査当時の「町」のままにしてあります。

2 調査開始の1982年から『手引』は作っていました。そして毎年前期の講義はこれを中心に進めました。調査を重ねるたびに、少しずつ量が増えてきました。

その日の調査が終わった学生は三々五々、宿舍に帰ってきます。順調に行って早く帰ってきて寛いでいる人もいれば、夕食時になってもまだ帰ってこない人もいます。車で宿舍まで送ってくださる調査先の家族もよくあります。夕方決められた時間までに調査が終わらない時は、宿舍の私に連絡することになっています。それは必ず守られました。

さて調査先から帰ってくると、まず私のところに来て、調査済の調査票を手渡すと同時に、その日調査に伺ったお宅の場所は、私の五万分の一地図の上に、印をつけます。その作業をしながら、その日の様子を話します。私のほうから聞かなくても、学生のほうから話してきます。なにしろ初めての経験ですから、疲れも忘れているようです。その作業が終わると、調査地点番号を各項目に所定の場所に記入します。夕食までは自由時間ですから、それは自分の部屋に帰ってやってもいいことにします。

調査合宿の夕食後はミーティングを開きます。その日の調査状況（うまく行った、うまく行かなかった、どうしたらいいか分からなかった、等々）を話し合います。それが終わると、翌日の調査先を小グループ毎に指示します。それ以上の具体的なことはグループ内で決めさせます。夜十時ごろまでそういう作業が続きます。

この夕食後のミーティングで、あるいは学生どうしが個人的に話しているのを聞いている時、この『手引』に組み込まなければならない材料がワンサと見つかります。それが基になって出来上がったものです。

受理した調査済の調査票は、就寝するとき私の枕元におきます。寝る前、また夜中目が覚めたとき、目をとおします。問題点があれば翌朝、朝食の前後に注意することがあります。

3 『手引』の説明に補充したい箇所があります。そういう時に使ったハンドアウト handoutsの中から選び掲載しました。

第2分冊以降としては、次の二つのことを予定しています。①資料の分布地図化、と②分布地図の解釈です。そこまでいきますと、次のようなことが期待されます。

(1) 東京湾を挟んだ神奈川県側と千葉県側との関係について貢献できる可能性があります。

(2) 千葉県〔木更津・君津・富津市〕は、南側で千葉県安房郡と接しています。正確に言いますと千葉県安房郡・館山市・白浜市からなる地域と接しています。この地域の分布地図については、すでに(1984年)、故グロータースと筆者の名で公刊してあります。したがって、房総半島中部と南部との関係について貢献できる可能性があります。

なお、東京湾岸言語調査の調査票の内容、および調査のさい使用した絵については東京湾岸言語地図〔横浜市・三浦半島〕の第1分冊に掲載してあります。

調査者の中には、房総半島が自分の故郷である学生が、各調査のとき必ず何人かいました。その後 NHK の放送記者になって、現在活躍している女学生がいました。また、この調査には参加していないがわたしの別な授業に出ている学生が、夜のミーティングに差し入れをしてく

れたりしました。また、宿舎のご主人が、われわれの調査のことを知って、関係する文献書類について熱心にご教示くださいました。山に近いある農家では牛舎の中で質問しました。途中、すぐ近くにいた牛の力強い「ゆばり」(尿)の跳

ね返りを意に介せず話しを続けられ、私のほうが気が気でなかった、そんなこともありました。あれを思い、これを思い、直接間接、調査にご協力いただきました皆様に遅ればせながら、衷心感謝申し上げます。

# 1 回答者(インフォーマント)等一覧表

地点 番号	地点名	住 所	回答者	性別	生年	在外暦	調査者	調査日
6619	3698 高須	木更津市中島	大村 まつ	f	T10	0	宮脇 清子	88/9/26
	3767 高須	木更津市牛込	鳩飼 文吉	m	T13	0	佐々木英樹	88/9/26
	81 新 町	木更津市中島	緒形 長松	m	T 4	3	佐々木英樹	88/9/26
	97 牛込	木更津市牛込	兼古 勇	m	S16	0	豊田 哲也	88/9/26
	3874 高洲	君津郡袖ヶ浦町奈良輪	関 保	m	T 5	0	大槻 勝己	89/7/28
	83 奈良輪高洲	君津郡袖ヶ浦町奈良輪	茂木 彰	m	T 4	0	藤森 祐子	89/7/28
	84 高須	君津郡袖ヶ浦町奈良輪	鈴木 さ津	f	T 9	0	前田・古谷	89/7/28
	3961 居下	君津郡袖ヶ浦町今井	花沢 清	m	T 6	2	前田佳珠子	89/7/26
	62 今井	君津郡袖ヶ浦町今井	花沢 藤男	m	T14	0	吉田 雅子	89/7/26
	4606 雲蛇	木更津市中島	今間 幸二	m	T 7	0	寺田 理央	88/9/26
	07 金田	木更津市中島	佐久間猪之蔵	m	T 8	0	寺田 理央	88/9/26
	24 金田村中島高須	木更津市中島	大村 くま	f	M44	0	飯田 玲子	88/9/28
	25 高須	木更津市中島	大村 菊子	f	T 6	0	飯田 玲子	88/9/28
	35 金田	木更津市金田中島高須	大村仁太郎	m	M28	0	飯田 玲子	88/9/28
	43 見立	木更津市瓜倉	高橋 量	m	T13	0	宮脇 清子	88/9/26
	68 瓜倉	木更津市瓜倉	星野伝一郎	m	T 3	0	塚本有太郎	88/9/26
	71 浜戸	木更津市畔戸	江沢謙三郎	m	T 8	6	柿本実菜子	88/9/26
	81 浜戸	木更津市畔戸	江沢 鶴松	m	T 4	0	柿本実菜子	88/9/26
	93 七丁山	木更津市畔戸	高浦不二夫	m	M34	8	円岡・野澤	88/7/27
	4701 浜戸	木更津市中島	池内 春次	m	T12	3	佐々木英樹	88/9/26
	06 牛込	木更津市牛込	古関 みつ	f	T15	0	豊田 哲也	88/9/26
	20 船倉	木更津市中島	しのだしげお	m	S13	0	塚本有太郎	88/9/26
	27 中野	木更津市中野	桐谷 武	m	T 9	4	田原 章子	88/9/26
	47 中野	木更津市中野	明石 一男	m	S28	4	田原 章子	88/9/26
	79 坂戸の西	君津郡袖ヶ浦町坂戸市場	勝畑 泰助	m	M36	0	佐々木英樹	88/7/26
	94 萬石	木更津市萬石	松戸 泰二	m	M42	6	豊田・田原	88/9/27
	4815 奈良輪	君津郡袖ヶ浦町奈良輪	長谷川 操	m	T 7	0	藤森 祐子	88/7/28
	18 奈良輪	君津郡袖ヶ浦町奈良輪	鈴木 等	m	M43	0	吉田 雅子	88/7/28
	69 神納	君津郡袖ヶ浦町神納	多田 キミ	f	M38	1	野田 洋子	88/7/28
	70 坂戸市場	君津郡袖ヶ浦町坂戸市場	小見川三郎	m	T10	0	石黒友佳理	88/7/28
	83 神納新田	君津郡袖ヶ浦町神納	木村 正司	m	M40	11	藤本 智美	88/7/28
	93 神納新田	君津郡袖ヶ浦町神納	多田米次郎	m	T 2	3	二階 朋子	88/7/28
	4962 大野台	君津郡袖ヶ浦町神納	石渡 武雄	m	T 2	0	藤森・早川・星	88/7/26

地点 番号	地点名	住 所	回答者	性別	生年	在外暦	調査者	調査日
6619	4972 大野台	君津郡袖ヶ浦町神納	関 一雄	m	S 3	0	星・早川	88/7/26
	81 仁田島	君津郡袖ヶ浦町神納	石井 せき	f	M35	0	二階・野田	88/7/26
	5603 畔戸	木更津市畔戸	高浦 <sup>まさのじょう</sup> 正之丞	m	T 4	4	豊坂 秀彦	88/9/26
	13 畔戸	木更津市畔戸	本多 つね	f	T 3	0	豊坂 秀彦	88/9/26
	73 沖ノ山	木更津市久津間	平野 広	m	M36	0.4	塚本・國廣	88/9/27
	99 江賀	木更津市江川	伊藤 キミ	f	S 10	0	宮脇・柿本	88/9/25
	5705	木更津市万石	斉藤 一郎	m	S 6	0	豊坂 秀彦	88/9/27
	10 <sup>ひがしはいまつ</sup> 東 這松	木更津市久津間	園 <sup>その</sup> 庄 <sup>しょういち</sup> 一	m	T 7	10日	佐々木英樹	88/7/26
	35 後原	木更津市高砂	安藤 豊吉	m	T 10	0	寺田 理央	88/9/27
	36 後原	木更津市高砂	安藤 清	m	T 13	2	柿本実菜子	88/9/27
	45 後原	木更津市高砂	山口 はる	f	T 9	0	宮脇 清子	88/9/27
	5803 出津	君津郡袖ヶ浦町神納	多 <sup>ただ</sup> 田 <sup>だ</sup> まさ	f	T 4	0	前田佳珠子	89/7/27
	10 川間尻	君津郡袖ヶ浦町坂戸市場	桐谷 <sup>きりたに</sup> 雪男	m	T 2	0	前田佳珠子	89/7/29
	39 曾根	木更津市曾根	座間 やす	f	M45	0	吉田 <sup>のりこ</sup> 雅子	89/7/27
	67 芝古	木更津市手袋 <sup>の</sup> 野	渡辺 武	m	T 10	0	成田 有吾	89/7/27
	73 牛袋	木更津市牛袋 <sup>うしぶくろ</sup>	島野 祐次	m	M37	0	成田 有吾	89/7/27
	83 南飯富	木更津市牛袋	林 <sup>きよし</sup> 喜吉	m	M43	0	藤森 祐子	89/7/27
	84 牛袋	木更津市牛袋	鈴木 めつ	f	M40	0	早川真由美	89/7/27
	88 井尻	木更津市井尻	芝崎 <sup>しばざき</sup> 大二郎	m	T 2	10	吉田 <sup>のりこ</sup> 雅子	89/7/27
	93 台畑	木更津市牛袋	島野 栄治	m	M44	0	成田 有吾	89/7/27
	5904 西	君津郡袖ヶ浦町 <sup>いいとみ</sup> 飯富	小川 勲	m	M45	0	古谷 由起	89/7/27
	19 六軒町	君津郡袖ヶ浦町 <sup>しもにつた</sup> 下新田	山田 信一	m	T 5	0	古谷 由起	89/7/27
	70 井尻	木更津市井尻	浅井 <sup>よし</sup> 芳	f	T 9	0	二階 朋子	89/7/27
	80 井尻	木更津市井尻	藤尾 かよ	f	T 7	0	二階 朋子	89/7/27
	6619 中里	木更津市中里	友野 はや	f	M38	0	豊坂・飯田	88/9/25
	29 宿	木更津市中里	永峯 敬三	m	S 12	0	豊坂・飯田	88/9/25
	39 一番組	木更津市中里	友野 保	m	S 12	0	柿本・宮脇	88/9/25
	99	木更津市新宿	堀井好之助	m	M44	5	荷宮・秋田	88/7/29
	6703 西山	木更津市高柳	菅沼 まさ	f	T 12	0	國廣 明美	88/9/25
	24	木更津市長須賀	鳥海 秀夫	m	S 17	0	國廣 明美	88/9/25
	29 後場(牛袋)	木更津市牛袋	鶴岡 清夫	m	M43	0	寺田 <sup>りお</sup> 理央	88/9/25
	56 長須賀北	木更津市長須賀	森 俊夫	m	S 3	2.5	田原 章子	88/9/25
	89 鶴ヶ丘	木更津市永井作	わたなべ宗治	m	S 12	0	塚本有太郎	88/9/25
	96 長須賀南	木更津市長須賀 <sup>ながすが</sup>	中村 ちよ	f	M35	0	豊田 哲也	88/9/25
	6803 牛袋	木更津市牛袋	杉山 トヨ	f	M37	0	野田 洋子	89/7/27
	04 牛袋	木更津市牛袋	君塚 <sup>きみづか</sup> 嘉夫 <sup>よしお</sup>	m	M42	0	早川真由美	89/7/27
	13 <sup>えのきだい</sup> 榎 台	木更津市牛袋	藤井 久	m	S 3	2	藤森 祐子	89/7/27
	22 <sup>ひらじま</sup> 平島	木更津市牛袋	鈴木 隆	m	T 10	5	佐々木英樹	88/9/25
	27 十日市場	木更津市十日市場	佐久間謙二	m	T 13	0	野田 洋子	89/7/27
	31 牛袋	木更津市牛袋	平野 よし	f	M33	0	早川真由美	89/7/27
	36 十日市場	木更津市十日市場	佐久間彦十郎	m	M32	0	野田 洋子	89/7/27

地点 番号	地点名	住 所	回答者	性別	生年	在外暦	調査者	調査日
6619	6930 本郷(西村)	木更津市大寺 <sup>おおでら</sup>	宮本栄一郎	m	M43	4	大槻・星・藤本	89/7/27
	37 白山前 <sup>はくさんまえ</sup>	木更津市下望陀 <sup>しももうだ</sup>	安田 利夫	m	T12	0	星 和弘	89/7/27
	55 椿 <sup>つばき</sup>	木更津市椿	金綱 兼蔵 <sup>かねつな</sup>	m	T 8	4	藤本 智美	89/7/27
	7619 南片町	木更津市中央	渡邊 禎吉 <sup>ていきち</sup>	m	M43	15	秋本佳代子	88/7/29
	29 弁天町 <sup>べんてんちよう</sup>	木更津市富士見	藤波 衆男 <sup>くめお</sup>	m	T10	0	森 幸子	88/7/29
	39 南町	木更津市富士見	浪久満寿子 <sup>なみひさますこ</sup>	f	M40	0	田代・中本	88/7/29
	7705 畳ヶ池	木更津市朝日	小籠 きく	f	T 6	0	小籠 琴路	88/7/29
	10 本町	木更津市中央	北村松之輔	m	T 4	3	渡辺 美保	88/7/29
	16 一ノ坪	木更津市朝日町	渡辺 キヨ	f	M40	0	大槻 勝己	89/7/26
	20 八幡町	木更津市富士見	北村 博	m	T 7	0	渡辺 美保	88/7/29
	30 富士見	木更津市富士見	板垣 しげ	f	M31	0	野澤 綾子	88/7/29
	40 南町	木更津市富士見	安川 重夫 <sup>しげひら</sup>	m	M44	4	矢崎 達也	88/7/29
	7880 中郷谷 <sup>なかごうやつ</sup>	木更津市請西 <sup>じようざい</sup>	斉藤 茂平	m	M42	0	小林・黒澤	88/7/29
	81 日野	木更津市請西	渡辺 庄衛	m	T 8	0	小林・黒澤	88/7/29
	7923 三津田谷 <sup>みつだやつ</sup>	木更津市犬成	庄司 はつ	m	T15	0	米原・渡辺	88/7/28
	34 三津田谷	木更津市犬成	横田儀兵衛	m	M35	0	米原・渡辺	88/7/28
	43 上柳作 <sup>かみやなぎさく</sup>	木更津市犬成	三枝 三一 <sup>さえぐさ みつかず</sup>	m	S 3	0	米原・渡辺	88/7/28
	44 上三津田	木更津市犬成	庄司 茂二	m	T 4	5	米原・渡辺	88/7/28
	8618	木更津市桜井	石井 敏子	f	T10	0	田代・中本	88/7/28
	38	木更津市桜井	石川 真一	m	S 4	0	田代・中本	88/7/28
	47 桜井南町	木更津市桜井	高橋 岩吉	m	T 8	0	田代・中本	88/7/28
	57 桜井	木更津市桜井	白井 染子	f	T 9	0	田代・中本	88/7/28
	89 エンノウチ	木更津市大久保	露崎 きわ	f	T 4	0	瓜田由起子	88/7/28
	8703 千束 <sup>せんぞく</sup>	木更津市請西 <sup>じようざい</sup>	斉藤徳千穂 <sup>とくちほ</sup>	m	T 4	9	佐々木英樹	88/7/27
	12 馬船	木更津市請西	石井 弘	m	T 5	0	瓜田・山田	88/7/29
	40 サワイ	木更津市桜井	清水 正幸	m	S 3	0	瓜田・山田	88/7/28
	61 桜井谷 <sup>さくらいやつ</sup>	木更津市桜井谷	萱野 とく <sup>かやの</sup>	f	M44	0	増田・中田	88/7/28
	62 桜井谷	木更津市桜井谷	萱野 いね	f	M40	0	増田・中田	88/7/28
	8848 大坪前 <sup>やな</sup>	木更津市矢那	桑田 政雄 <sup>くわだ</sup>	m	M45	0	野澤 文	88/7/28
	54 明石口	木更津市矢那	大岩 光一 <sup>ことうだちえいこ</sup>	m	T 7	8	秋本佳代子	88/7/28
	69 和田根	木更津市矢那	古藤田智恵子 <sup>しようえもん</sup>	f	T 8	1	野澤 文	88/7/28
	76 矢畑	木更津市矢那	宮崎正右エ門	m	M28	0	野澤 文	88/7/28
	77 中郷	木更津市矢那	竹内 正夫	m	T 6	4	秋本佳代子	88/7/28
	87 天神前	木更津市矢那	大岩 久好 <sup>きりいし</sup>	m	S12	0	岡岡美乃里	88/7/28
	8933 馬船	木更津市真船	桐石 巳治 <sup>みはる</sup>	m	T 6	0	瓜田・山田	88/7/29
	70 和田根	木更津市矢那	市原 武 <sup>もり</sup>	m	T 2	14	野澤 文	88/7/28
	9498 山下	君津市人見	守 正義	m	T14	0	荷宮・秋田	88/7/27
	99 山下	君津市人見	高橋 敏男	m	T 8	0	荷宮・秋田	88/7/27
	9587 坂田 <sup>ひがしきかた</sup>	君津市東坂田	斉藤 ひろ	f	M38	0	小籠・中本	88/7/27
	88 加地畑 <sup>かじ</sup>	君津市坂田 <sup>さかた</sup>	平野與志雄 <sup>よしお</sup>	m	T11	5	田代未来子	88/7/27
	9620 畑沢 <sup>はたざわ</sup>	木更津市畑沢	北見 正作 <sup>しよさく</sup>	m	T 1		渡辺 美保	88/7/27

地点 番号	地点名	住 所	回答者	性別	生年	在外暦	調査者	調査日
6619 9641		木更津市畑沢	渡辺 静江	f	S 18	0	瓜田由起子	88/7/27
44	馬込	木更津市畑沢	伊藤 廣	m	T 8	0	秋本佳代子	88/7/27
53	フクロシタ	君津市畑沢	渡辺 武二	m	T 2	0	山田 加奈	88/7/27
57	東原	木更津市畑沢	伊藤 長治	m	T 5	0	米原 聡子	88/7/27
9701	山神	木更津市下烏田	石井 博	m	T 3	0	矢崎 達也	88/7/27
02	山神	木更津市下烏田	鈴木長三郎	m	T 2	4.5	矢崎 達也	88/7/28
05	ほりのうち	木更津市下烏田	つるおかきみえ	f	S 4	0	野澤・森	88/7/27
12	山神	木更津市下烏田	飯島 盛治	m	S 6	0	矢崎 達也	88/7/27
15		木更津市下烏田	鶴岡周太郎	m	M27	0	小林めぐみ	88/7/27
16	長田	木更津市下烏田	竹内 くら	f	M38	0	黒澤 一臣	88/7/27
32	上根	木更津市大久保	根本 みつ	f	T 3	4	矢崎 達也	88/7/28
35	三直田	木更津市下烏田	石井 剛夫	m	T14	3	矢崎 達也	88/7/28
37	関谷	木更津市下烏田	鶴岡 よし	f	T11	0	野澤・森	88/7/27
9811	中逗子	木更津市上烏田	秀崎 きん	f	T 4	0	野澤・森	88/7/28
21	長者谷	木更津市上烏田	刈米 正栄	m	T 1	0	野澤・森	88/7/28
22	江戸谷	木更津市上烏田	林 隆二	m	T 2	0	荷宮・秋田	88/7/28
32	砂田	木更津市上烏田	刈米 貞治	m	T 5	5	野澤・森	88/7/28
33	井戸谷	木更津市上烏田	刈米 幸七	m	T 5	4	野澤・森	88/7/28
43	山田	木更津市上烏田	鈴木よ志子	f	T15	0	荷宮・秋田	88/7/28
44	砂田	木更津市上烏田	鈴木チヅ子	f	S 7	0	荷宮・秋田	88/7/28
9922	名主ヶ谷	木更津市矢那	石井 新一	m	T12	2	佐々木英樹	88/7/28
33	名主ヶ谷	木更津市矢那	石井 清	m	S 7	0.3	佐々木英樹	88/7/28
34	名主ヶ谷	木更津市矢那	石井 嘉夫	m	T 2	8	黒澤・小林	88/7/28
52	猪台	木更津市矢那	大岩 武	m	T10	0	黒澤・小林	88/7/28
53	猪台天下	木更津市矢那	平野 幸司	m	S10	0	小籠 琴路	88/7/28
63	猪台	木更津市矢那	細野 政一	m	M35	0	黒澤・小林	88/7/28
89		木更津市矢那	鵜田 寅夫	m	S 1	2	黒澤・小林	88/7/28
6629 0388	いなり山	富津市青木	鹿島三十郎	m	T 5	5	樋口 吉徳	86/9/26
0405	大堀	富津市大堀	平野 恵造	m	T 9	0	塚原・瀧口	86/9/26
25	山ノ台	富津市大堀	小泉八十吉	m	M43	0	宮崎 陽子	86/9/27
36		富津市大堀	石垣 しん	f	T 4	0	宮崎 陽子	86/9/27
39	川向	君津市人見	高橋辰次郎	m	T10	0	浅見 昌代	86/9/27
58	笹塚	富津市二間塚	須藤 源造	m	T 8	7	浅見 昌代	86/9/27
63	内裏塚	富津市二間塚	古宮 くら	f	T 8	0	成毛・小坂	86/9/26
71	青木	富津市青木	佐野 宏	m	S11	0	成毛・小坂	86/9/26
95	山王	富津市下飯野	本田 親之	m	T13	0	宮崎 陽子	86/9/27
0538	大別当	君津市中野	岡崎 岩夫	m	T15	0	畠山 禎	86/9/27
48	小原	君津市中野	石井 由雄	m	T 5	9	畠山 禎	86/9/27
56	櫛口	君津市中富	斎藤 重吉	m	M38	0	小野田悦子	86/9/27
64	中富	君津市中富	斎藤 ぬい	f	T 6	0	小野田悦子	86/9/27
65	中富	君津市中富	斎藤 せん	f	M44	0	檜垣 嗣子	86/9/27

地点 番号	地点名	住 所	回答者	性別	生年	在外暦	調査者	調査日
6629 0578	釜神	君津市貞元釜神 <sup>さだもとがみ</sup>	山中 益雄 <sup>ます お</sup>	m	T 3	5	小野田悦子	86/9/27
92	二間塚上部	富津市二間塚 <sup>ふた まづか</sup>	山田伊勢松	m	M40	0.5	檜垣 嗣子	86/9/27
0611	高坂	君津市高坂	磯見久太郎	m	M22	3	丸山 高弘	87/7/28
40		君津市台	岡崎 高 <sup>たかし</sup>	m	M36	4	畠中・武田	87/9/28
48	北子安	君津市北子安	石崎 敬	m	M36	0	梶沼 義尚	87/7/27
58	東	君津市南子安	村田 勇三	m	T 1	0	金本 陽子	87/7/28
60	中野石塚	君津市中野	荻込 ちよ <sup>かりこみ</sup>	f	M42	0	高梨 淳	87/7/28
62	宮田	君津市南久保	坂本 亀吉	m	M29	0	本間 庸子	87/7/28
75	西台	君津市杵師 <sup>むくし</sup>	斉藤 一郎	m	M35	0	清水 慶育	87/9/28
85	西台	君津市杵師 <sup>むくし</sup>	鶴岡 盈蔵 <sup>みつぞう</sup>	m	S 4	0	秋山・泉水	87/9/28
1237		富津市富津	渡辺 実	m	T 8	2	鈴木・篠崎	86/9/26
39		富津市富津東区	大久保治郎吉	m	M37	0	石井・田村	86/9/26
67		富津市富津	(匿名希望)	f	S 17	0	鈴木・篠崎	86/9/26
1332	原口	富津市新井	飯田 三吉	m	T10	4	千久由利子	86/9/27
33	原	富津市新井	中島 治郎	m	M38	0	千久由利子	86/9/27
73		富津市川名	森 一司	m	S 5	0	内田 朱実	86/9/27
83	西砂除 <sup>にしすなよけ</sup>	富津市川名	森 常次郎	m	M43	7	三河 里夏	86/9/27
94	川尻	富津市川名	幾野勝太郎	m	T13	0	三河 里夏	86/9/27
95	東菅原	富津市川名	森 己之吉	m	T11	0	千久由利子	86/9/27
96		富津市川名	石川 善司	m	S 2	0	奥村 治美	86/9/27
1407	山王 <sup>さんのう</sup>	富津市下飯野	宮本浅次郎	m	M39	0	塚越・福田	86/9/26
08	台畑	富津市下飯	嶋野 由蔵	m	M43	0	田村・山村	86/9/28
21	逆川 <sup>さかさがわ</sup>	富津市上飯野	石井倫太郎	m	T 8	7	佐々木英樹	87/9/26
64	下飯野	富津市下飯野	鈴木 茂	m	S 2	0	石井・篠崎	86/9/28
1515	下湯江	富津市下湯江	和田 康夫	m	T10	7	坂野・岡戸	86/9/26
62	西谷	富津市本郷	小幡 隆	m	T 7	1	島田・日暮	86/9/26
1608	中久保	君津市杵師 <sup>むくし</sup>	鶴岡 静枝	f	T13	0	木崎 智子	86/7/28
13	下宿 <sup>しもじゆく</sup>	君津市貞元 <sup>さだもと</sup>	平野林太郎	m	M33	0	畠中美和子	87/9/27
35	田中後 <sup>たなかうしろ</sup>	君津市八幡	石崎吉次郎 <sup>よしじろう</sup>	m	T 6	2	畠中美和子	87/9/27
63	熊野山	君津市新御堂 <sup>しんごどう</sup>	斎藤 理雄 <sup>よしお</sup>	m	M44	1.5	武田いずみ	87/9/27
1702	法木作	君津市法木作 <sup>ほうぎさく</sup>	小林 竹次	m	T15	0	秋山 文宏	87/9/27
37	三直 <sup>みのう</sup>	君津市三直	鈴木 直衛	m	M37	0	清水 慶育	87/9/27
78	六手 <sup>むて</sup>	君津市六手	石井よし子 <sup>よしこ</sup>	f	T 6	0	清水 慶育	87/9/27
81	常代 <sup>とこしろ</sup>	君津市常代	松本富代子	f	M28	0	秋山 文宏	87/9/27
1833		君津市練木	海老根重雄	m	T 3	2.5	丸山 高弘	87/7/26
83	大道 <sup>だいどう</sup>	君津市中島	小川 正時 <sup>まさとき</sup>	m	T 3	0	金本 陽子	87/7/26
91	泉	君津市泉	野口 とり	f	M42	0	重岡 紅	87/7/26
95	中島和田	君津市中島	小川 栄司	m	M43	0	本間 庸子	87/7/26
96	堀ノ内	君津市中島	坂井 浩	m	M44	0	江尻真由美	87/7/26
1951	上郷	君津市大井	見富 岩雄	m	T 7	6	梶沼 義尚	87/7/26
2316		富津市川名	森川 友吉	m	M28	0	奥村 治美	86/9/27

地点 番号	地点名	住 所	回答者	性別	生年	在外暦	調査者	調査日
6629	2319 南前原	富津市篠部	白石 猪松	m	M35	0	山村・吉田	86/9/26
	2427 稲際	富津市西大和田	石井 光 <sup>あきら</sup>	m	T15	1	坂野・岡戸	86/9/28
	40 下口	富津市千種新田	保坂 兼久	m	T14	1	坂野・岡戸	86/9/28
	54 千種新田	富津市千種新田	高橋 米松	m	T12	0	石井・篠崎	86/9/28
	66 稲子台	富津市西大和田	荒木 よし	f	T4	6	日暮・島田	86/9/28
	85 大井戸	富津市岩瀬	稲葉 保二	m	T12	5	笹原・中村	86/9/28
	94 向 <sup>むかい</sup>	富津市岩瀬	榎本 五郎	m	M43	0	笹原・中村	86/9/28
	95 入向	富津市岩瀬	刈込五郎吉	m	M40	0.8	日暮・島田	86/9/28
	2572 樫ヅキ	富津市絹	佐瀬 惣治	m	T3	4	鈴木・吉田	86/9/28
	84 根方 <sup>ねかた</sup>	富津市絹	在 <sup>あり</sup> 原 <sup>はら</sup> 久蔵 <sup>きゆうぞう</sup>	m	M33	0	鈴木・吉田	86/9/28
	2604 下南谷 <sup>しもみなみやつ</sup>	君津市郡	三幣 <sup>さんぺい</sup> 林也 <sup>りんや</sup>	m	T14	5	武田いずみ	87/9/27
	90 古谷 <sup>こや</sup>	富津市上	長嶋 良平	m	T4	0	佐々木英樹	86/9/26
	91 梅田	富津市上	長嶋 芳蔵	m	M45	0	浅見・宮崎	86/9/26
	97 三段目 <sup>けんもつ</sup>	君津市小山野	剣持 良雄	m	T2	3	畠山 禎	86/9/26
	2731 宮下 <sup>みやのした</sup>	君津市宮下	相川 要蔵	m	M32	0	日暮・島田	86/9/27
	62 東谷	君津市大山野	塚越 きよ	f	T5	6	日暮・島田	86/9/27
	78 尾車 <sup>びしゃ</sup>	君津市尾車	佐久間道中 <sup>みちなか</sup>	m	T6	0.2	塚越・福田	86/9/27
	88 尾車	君津市尾車	小川 美代	f	M41	2	塚越・福田	86/9/27
	2811 泉	君津市泉	三田 良雄	m	T12	0	重岡 紅	87/7/26
	16 中島の武勇 <sup>しいぎ</sup>	君津市中島	佐藤 東衛 <sup>とうえ</sup>	m	T14	0	木崎 智子	87/7/26
	23 椎木	君津市中島	田丸 博	m	M45	1	佐々木英樹	87/7/26
	38 川久保	君津市糠田 <sup>しろこま</sup>	関口順一郎	m	T7	4	加茂麻由子	87/7/26
	51 本作 <sup>ほんざく</sup>	君津市白駒	佐久間ふさ	f	T12	0	佐々木英樹	87/7/26
	55 白駒	君津市白駒	谷 秋蔵	m	T3	0	高梨 淳	87/7/26
	66	君津市中島	谷 喜一郎	m	T11	2	水上 拓也	87/7/26
	2983 福岡	君津市福岡	鳥飼 <sup>とりがい</sup> 米 <sup>よね</sup>	m	M39	0	本間 庸子	87/7/27
	3414 岩瀬新町	富津市岩瀬	原口 米吉	m	T4	0	奥村 治美	86/9/28
	22 仲町 <sup>なかつちよう</sup>	富津市小久保仲町	刈込 <sup>かりこみ</sup> 碩弥 <sup>せきや</sup>	m	T7	5	坂本 久美	86/9/28
	23	富津市岩瀬	若月 佐吉	m	T7	0	内田 朱実	86/9/28
	27 鬼ヶ谷	富津市中鬼ヶ谷	竹内 芳松	m	M35	0	宮崎 陽子	86/9/28
	33 川向	富津市小久保	堀 四郎	m	T7	0	三河 里夏	86/9/28
	38 平塚	富津市中	高橋 さだ	f	M34	0	浅見 昌代	86/9/28
	42 小久保	富津市小久保	落合きく江	f	M41	0	千久由利子	86/9/28
	43 小久保	富津市小久保	平野 善吉	m	T8	0	宮坂美加子	86/9/28
	80	富津市小久保	斉藤 たけ	f	M43	0	樋口 吉徳	86/9/28
	3518 前向 <sup>まえむき</sup>	富津市上 <sup>かみ</sup>	池田 充 <sup>みつる</sup>	m	T12	0	塚原・瀧口	86/9/27
	32 田島谷 <sup>や たぬま</sup>	富津市八田沼	石井 誠治	m	T4	0	畠山 禎	86/9/28
	66 上岩入 <sup>かみがんにゆう</sup>	富津市小久保	石渡 <sup>いしわた</sup> 式郎 <sup>いちろう</sup>	m	M42	0	小坂・成毛	86/9/27
	77 上岩入 <sup>にいやま</sup>	富津市小久保	石渡 東吉	m	M39	0	小坂・成毛	86/9/27
	3604 新山	富津市上新山	大森 武	m	T3	0	三河 里夏	86/9/26
	13 上	富津市上	石川 一郎	m	M44	0	奥村 治美	86/9/26



地点 番号	地点名	住 所	回答者	性別	生年	在外暦	調査者	調査日
6629 3623	上	富津市 <sup>かみ</sup> 上	川奈 <sup>しげ</sup> 繁 <sup>お</sup> 勇	m	T12	0	宮坂美加子	86/9/26
65	岩富	富津市亀沢	五月女 <sup>さ</sup> 中 <sup>おとめ</sup>	f	M42	0	内田・千久	86/9/26
71	北上 <sup>きたがみ</sup>	富津市亀沢 <sup>かめざわ</sup>	森 <sup>もり</sup> 清 <sup>きよ</sup>	m	T11	0	小坂・成毛	86/9/27
99	稲子沢	富津市 <sup>いな</sup> 稲子沢 <sup>ござわ</sup>	三平 <sup>さんぺい</sup> 徳雄 <sup>とくお</sup>	m	T 4	5	水上 拓也	87/7/27
3703		君津市大山野	山本 <sup>こうちゆう</sup> 廣中	m	M43	0	笹原 明代	86/9/27
93	六平治	君津市大山野高浦	高浦 トリ	f	M30	0	中村 友美	86/9/27
3800	草牛 <sup>そうぎゆう</sup>	君津市草牛	河口 とよ	f	T 7	0	福田・塚越	86/9/27
32	堰下 <sup>せきした</sup>	君津市草牛	小川長次郎	m	T 4	9	樋口・坂本	86/9/27
34	船ヶ作	君津市草牛船ヶ作	竹内 はつ	f	M44	4	樋口・坂本	86/9/27
3904	鎌滝	君津市鎌滝	溝口新一郎	m	T11	0	江尻真由美	87/7/27
14	下小糸	君津市鎌滝	溝口 菊枝	f	T 3	0	本間 庸子	87/7/27
37	沢巻	君津市糸川	山田 いし	f	M35	0	金本 陽子	87/7/27
46	沢巻	君津市糸川	北川 政衛	f	T 3	0	金本 陽子	87/7/27
52	芝山	君津市鎌滝	春井 柳治	m	T 5	4	加茂麻由子	87/7/27
65	芝原	君津市鎌滝	玉川 清	m	M32	0	加茂麻由子	87/7/27
69	上坪	君津市 <sup>につとね</sup> 日渡根	石井 <sup>わねいち</sup> 宗一	m	M44	0	重岡 紅	87/7/27
4469	座主坊	富津市亀田	金井 伝蔵	m	M41	2	大木・吉川	86/7/26
79	亀田	富津市亀田	金井 正	m	T 6	6	大木・吉川	86/7/26
87	上町	富津市 <sup>やわた</sup> 八幡	榎本 <sup>もとし</sup> いく	f	T 3	7	大木・吉川	86/7/26
88	大坪	富津市 <sup>かめだ</sup> 亀田	宮崎 元治	m	T 7	11	大木・吉川	86/7/26
99	宮下	富津市 <sup>やはた</sup> 八幡	小川 政雄	m	T15	0	山口 峰代	86/7/27
4544	二双川 <sup>ふたまたがわ</sup>	富津市佐貫	松岡 操	m	T 2	0	佐々木英樹	86/9/27
47	佐貫	富津市佐貫	山下 政吉	m	T 8	6	金川・本田	86/7/26
48	殿町 <sup>とのまち</sup>	富津市佐貫	阿部 正基	m	M32	4	佐藤・田中	86/7/26
75	鶴岡	富津市鶴岡	高梨 とし	f	T 9	0	金川・本田	86/7/26
94		富津市鶴岡	内野 峰吉	m	M44	0	金川・本田	86/7/26
4642	宝竜寺	富津市宝竜寺	藤井 <sup>ときじ</sup> 時治	m	M41	0	金川・本田	86/7/26
61	坂口	富津市宝竜寺	中山 平治	m	M40	0	佐藤・田中	86/7/26
4700	倉沢	富津市宝竜寺	木村 隆夫	m	T 6	0	泉水 浩隆	87/9/27
4885	箕輪町	君津市鹿野山	鈴木 清	m	T 6	2.5	丸山 高弘	87/7/27
86	あ伽井町 <sup>はぎゅう</sup>	君津市鹿野山平野	平野 さよ	f	M43	0	丸山 高弘	87/7/27
4959	萩生	君津市清和市場	須藤 <sup>はじめ</sup> 一	m	M42	0	佐々木英樹	87/7/27
88	田中台	君津市清和市場	田丸 隆二	m	T 7	0	佐々木英樹	87/7/27
98	西栗倉	君津市西栗倉	石井 宗治	m	M40	12	梶沼 義尚	87/7/27
5407	どんどん	富津市八幡	戸崎 岩吉	m	T14	0.3	志村 美弥	86/7/27
08	宮下	富津市八幡	小川 恵造	m	M45	5	田中 礼子	86/7/27
38		富津市 <sup>きまけ</sup> 笹毛	角田 <sup>つのだ</sup> 志 <sup>しん</sup>	f	M43	0	畠中美和子	87/9/26
89	下毛	富津市笹毛笹毛区	高梨 与吉	m	M31	0	武田いずみ	87/9/26
5511	金谷 <sup>かねやつ</sup>	富津市八幡	山口 實	m	T11	0	泉水 浩隆	87/9/26
17		富津市鶴岡	角ヶ谷 <sup>すみがや</sup> 栄	m	T10	0	秋山・清水	87/9/26
70	宮前	富津市笹毛	溝口 <sup>ひろきち</sup> 広吉	m	M30	0	大内・梶沼	86/7/27

地点 番号	地点名	住 所	回答者	性別	生年	在外暦	調査者	調査日
6629 5601	勇後谷 <sup>ゆうご やつ</sup>	富津市宝龍寺	錦織 <sup>にしきおり</sup> 大治 <sup>だいじ</sup>	m	T 1	11	泉水 浩隆	87/9/27
5777	六反 <sup>ろくたん</sup>	富津市田倉	小川 平一	m	S 4	0	佐々木英樹	87/9/27
5892	本町	富津市田倉 <sup>たぐら</sup>	斎藤 <sup>い</sup> 一子 <sup>いちこ</sup>	f	T10	0	大谷・岡本	86/7/26
93	本村	富津市田倉	斎藤喜代春	m	M45	1	大内・梶沼	86/7/26
5989	長所 <sup>ながところ</sup>	君津市植畑 <sup>うきはた</sup>	田渕 和男	m	S 5	0	重岡 紅	87/7/27
98	根形	君津市植畑	山田 てる	f	T 7	0	木崎 智子	87/7/27
6498	入船町	富津市湊	山田 やす	f	M42	0	本田・金川	86/7/27
6524	長浜	富津市湊	柳川 勇夫	m	T 2	2.5	小長井・桂	86/7/27
58	森脇	富津市加藤	山口 良一	m	M45	4	紀室・奥井	86/7/27
80	長町	富津市湊	今内 良二	m	M41	0	花岡 美晴	86/7/27
85	岩坂 <sup>い</sup>	富津市岩坂	野中 はつ	f	M42	0	メッガー・マリアン	86/7/27
6620	崩下 <sup>びやくした</sup>	富津市加藤	鈴木 重雄	m	T15	0	田中 陽子	86/7/27
25	駒場	富津市桜井	尾坂 久光	m	M44	0	木村 務	86/7/27
35	駒場 <sup>お</sup>	富津市桜井	正司 とき	f	T 8	0	大峽 広太	86/7/27
6751	古屋敷 <sup>ふる やしき</sup>	富津市恩田	渡辺 健次	m	M40	0	紀室・奥井	86/7/25
65	恩田	富津市恩田	加藤 久子	f	T15	3	飯塚 幸雄	86/7/25
81	中里	富津市関尻 <sup>せきじり</sup>	森 常吉	m	T 4	0	小長井文乃	86/7/25
92	中里	富津市関尻	高橋 静子	f	T 2	1	桂 真弓	86/7/25
95	坂口 <sup>ひら</sup>	富津市東大和田	林 裕舂 <sup>ひろみ</sup>	m	M35	0	内藤・高島	86/7/26
6818	苗割 <sup>なえわり</sup>	富津市田倉苗割	明石 <sup>あけ</sup> 金重 <sup>きんじゆう</sup>	m	M40	0	岡本・大谷	86/7/26
7359		富津市竹岡	原田竹治郎	m	M35	2	山口 峰代	86/7/25
85	松原	富津市竹岡	宮崎 <sup>みやざき</sup> 金義 <sup>かねよし</sup>	m	T15	4	田中 礼子	86/7/25
96	谷坪	富津市萩生	品ヶ瀬全提	m	T 3	8	小田麻理子	86/7/25
97		富津市竹岡	鈴木 莊三	m	M37	8	斎藤 文	86/7/25
7407	湊	富津市湊	笹生 とみ	f	M40	0	大木・佐藤	86/7/27
08	下町 <sup>しもちよう</sup>	富津市湊下町	畑中 元吉 <sup>もときち</sup>	m	M41	0	田中・吉川	86/7/27
71	森戸	富津市竹岡	岩野 <sup>い</sup> 隆吾 <sup>りゅうご</sup>	m	T10	0	田畑・元井	86/7/26
7503	西上原	富津市数馬 <sup>とりうみ</sup>	鳥海 栄治	m	S 4	0	林 康子	86/7/26
04	数馬	富津市数馬	相沢万兵衛	m	T15	0	林 康子	86/7/26
05	数馬 <sup>かずま</sup>	富津市数馬	佐藤 ユキ	f	T 4	0	田中 陽子	86/7/26
06	更和 <sup>さらわ</sup>	富津市更和	平野 婦美	f	T 4	0	田中 陽子	86/7/26
32	中南 <sup>ちゆうなん</sup>	富津市壳津 <sup>うるず</sup>	佐久間松雄	m	T10	4	志村 和美	86/7/26
37	日渡 <sup>いりやま</sup>	富津市不入斗	川名 きみ	f	T14	0	田中 陽子	86/7/26
7601	台原	富津市台原	高梨 貢	m	M38	4	田畑・元井	86/7/26
12	西ノ作	富津市長崎	真田栄次郎	m	M43	0	林 康子	86/7/27
51	荒木谷 <sup>あらき やつ</sup>	富津市不入斗 <sup>ふにゆうと</sup>	前沢 うた	f	M42	3	小長井・桂	86/7/26
7702	馬船	富津市上後	石井とし子	f	T10	0	藤本たえ子	86/7/26
03	関尻	富津市関尻	平野 信夫	m	T10	0	平林 敬子	86/7/26
11	関尻	富津市関尻	渡辺 りき	f	T10	3	高島 美保	86/7/26
13	西崎	富津市関尻	橋本 きみ	f	T10	0	平林 敬子	86/7/26
14	関尻	富津市関尻	平野 栄一	m	T ?	0	藤本たえ子	86/7/26

地点番号	地点名	住所	回答者	性別	生年	在外暦	調査者	調査日	
6629	7722	関尻	富津市関尻	池田ひで子	f	T 7	0	本田・金川	86/7/25
	29	関	富津市関	水野 富蔵	m	M40	3	メッガー・マリアン	86/7/26
	32	関尻	富津市関尻	高橋 邦夫	m	T 9	0	田中・大木	86/7/25
	33	なかごう 中郷	富津市関尻	相生 亮嗣	m	T 6	6	内藤 理佳	86/7/26
	61		富津市関尻	池田 岩夫	m	S 4	0	吉川・佐藤	86/7/25
	67	細野	富津市関	佐々間 平	m	T13	3	花岡 美晴	86/7/26
	71	ヨコババ	富津市小志駒	島田 守	m	T15	0	篠崎・田村	86/9/27
	72	松葉台	富津市小志駒	石井 吉松	m	T 9	5	篠崎・田村	86/9/27
	81	テグチョ	富津市小志駒	鈴木 トメ	f	M31	0	篠崎・田村	86/9/27
	88	関	富津市関	三浦 なみ	f	M45	3	花岡 美晴	86/7/26
7812		富津市高溝	たかみぞ 富津市高溝	松本 成才	m	M43	0	田中・林	86/7/25
	19	富津市宇藤原	うとうばら 富津市宇藤原	嶋野半重郎	m	T 6	7	本間 素直	86/7/25
	27	宇藤原	富津市宇藤原	嶋野 賢	m	M44	5	柴田 岳明	86/7/25
	33		富津市高溝	吉田 貢	m	T10	4	大峽 広太	86/7/25
	80	関	富津市関	佐久間なお	f	M32	4	メッガー・マリアン	86/7/26
8331		富津市萩生	おぎゅう 富津市萩生	斎藤 きみ	f	M45	0	内藤 理佳	86/7/25
	32		富津市萩生	石田 福治	m	S 2	0	高島 美保	86/7/25
	40	萩生	富津市萩生	白石 あい	f	M43	4	大谷・梶沼	86/7/25
	50	萩生	富津市萩生	神子 豊吉	m	T 7	5	大谷・梶沼	86/7/25
	75	ふういざか 風木坂	富津市金谷	三佐寄孫一	m	T 2	5	岡本 潤	86/7/25
8403		百首	富津市竹岡	石井 正照	m	M44	0	田畑・元井	86/7/26
	21	山入	富津市竹岡	小宮 英夫	m	T10	8	榎本 洋一	86/7/26
	31	かねやま 金山	富津市竹岡字金山	込宮 正一	m	M34	0	田畑・元井	86/7/26
	86	下白狐	富津市竹岡	宮崎弥太郎	m	T 4	0	田畑・元井	86/7/26
8511		高野	富津市相川	神子 浩	m	T13	5	柴田 岳明	86/7/26
	20	高野	富津市相川	神子 エイ	f	M42	0	柴田 岳明	86/7/26
	33	やつ 谷	富津市相川	伊藤喜一郎	m	M30	0	木村 務	86/7/26
	44	向野	富津市相川	川野 邦武	m	M44	0	木村 務	86/7/26
	55	古屋敷	富津市相川	星野 澄子	f	S 5	0	木村 務	86/7/26
	76	猪沢	富津市梨沢	小林 鏡純	m	S 9	4	大峽 広太	86/7/26
	96	南畑	富津市梨沢南畑	のうじょう 能城 節子	f	M43	3	大峽 広太	86/7/25
8623		田島	富津市不入斗	豊田 智恵	f	T13	1.5	紀室・奥井	86/7/26
8725		岩本	富津市岩本	川名 登	m	M37	0	鈴木・吉田	86/9/27
	34	梨の木	富津市岩本	川名 益江	f	S23	0	田村・篠崎	86/9/27
	35	竹井田	富津市岩本	森下スミエ	f	M44	0	鈴木・吉田	86/9/27
	43	よねだ 米田	富津市岩本	斎藤 和子	f	T15	0	鈴木・吉田	86/9/27
8862		御代原	富津市御代原	高島 巖	m	T 3	0	中垣内良佳	86/7/26
	72	中倉	富津市豊岡中倉	茂木 安枝	f	M36	0	福部・大津	86/7/26
	82	中倉	富津市豊岡	石塚 正夫	m	T11	0	福部・大津	86/7/26
	92	中倉	富津市豊岡	もき 茂木 英勇	m	T11	4	福部・大津	86/7/26
	93	中倉	富津市豊岡	加藤雅治郎	m	M39	0	福部・大津	86/7/26

地点 番号	地点名	住 所	回答者	性別	生年	在外暦	調査者	調査日
6629 9239		富津市金谷	石井 清松	m	T10	16	花岡 美晴	86/7/25
58	島戸倉	富津市金谷島戸倉	桐先 きの	f	T 3	0	メッガー・ マリアン	86/7/25
68		富津市金谷	島津 昭	m	S 2	0	中垣内良佳	86/7/25
9526	西根	富津市梨沢	山口 かつ	f	M33	5	本間 素直	86/7/26
46	高塚 しつばら	富津市梨沢	山口 清隆	m	M43	0	本間 素直	86/7/26
9615	鹿原	富津市梨沢	森 芳衛 よしえ	m	M32	0	飯塚 幸雄	86/7/26
25	鹿原	富津市梨沢	森 儀平	m	M29	1	飯塚 幸雄	86/7/26
9703	下郷	富津市志駒	池田 房夫	m	T10	4.5	石井・山村	86/9/27
12	小塚	富津市志駒	池田武治郎	m	T 9	6	石井・山村	86/9/27
14		富津市上越後 うえごうしろ	小泉 貢	m	M42	0	中垣内良佳	86/7/26
50	中郷	富津市志駒	白井ちえこ	f	T12	0	石井・山村	86/9/27
71	東原	富津市志駒	加藤 平	m	T 3	0	石井・山村	86/9/27
9844	豊岡	富津市豊岡	原 利夫	m	M42	0	中垣内良佳	86/7/26
65	逆木 さかさぎ	富津市豊岡	高梨 武 じん	m	M44	6	佐々木英樹	86/7/26
78	宇藤木	富津市豊岡	佐久間 仁	m	M40	5	佐々木英樹	86/7/26
6639 0219	荒戸	富津市金谷	錦織 達夫	m	S 5	0	元井・田畑	86/7/25
49	谷ノ津	富津市金谷	黒川治郎吉	m	M36	0	元井・田畑	86/7/25
0301	中台	富津市金谷	川股富之助	m	M40	0.3	時田・榎本	86/7/25
0667	下沢	富津市山中	藤井 朝義 ともよし	m	M43	0	斎藤 文	86/7/26
1627	下沢	富津市山中	川名 佐市	m	T12	1	斎藤 文	86/7/26
36	田島	富津市山中	高梨 忠 ただお	m	T15	4	山口 峰代	86/7/26
37	田島	富津市山中	高梨 力 つとむ	m	T 9	3	志村 美保	86/7/26
59	上畑	富津市山中	高梨 太一	m	T15	0	田中・小田	86/7/26
1750	上畑	富津市山中	高梨 勲	m	M?	0	田中・小田	86/7/26
51	奥畑	富津市山中	磯貝 富夫	m	T14	3	山口 峰代	86/7/26
53	奥畑	富津市山中 ひ かし	高浜 信 まこと	m	T15	0	志村 美弥	86/7/26
6720 6031	追込台	君津市東日笠	鈴木 志げ	f	T 3	7	高梨 淳	86/7/27
50	東	君津市西日笠	重田 よし	f	T 3	9	高梨 淳	86/7/27
計 3 8 9 名								

## 《東京湾岸言語調査》の手引 (1991年／1994年増補)

### §1 調査法のいろいろ

#### 1. 調査規模：

- 1) 標本調査      ①都市単位    ②町村単位  
                    ③小字（こあざ）単位

#### 2) 全員調査（＝全数調査）

N.B. 「しらみつぶし調査」

#### 2. 調査員とインフォーマントとの接触法：

- 1) 面接調査      ①訪問調査    ②招集調査  
2) 通信調査

N.B. 原田正純（はらだ・まさずみ）（1972:昭和47）『水俣病』（岩波新書841）：

- (1) ……病気を診断するにあたっては、その背景をも見通す洞察力がいかに必要かということ、いまさらのように感じさせられる。（p.8）

- (2) 代理人 料理はできますか？

患者S ハイ

代理人 裁縫やそうじは？

患者S できます

代理人 結婚しましたか？

患者S ハイ

このような形式的なやりとりでは、長いこと水俣病の重い十字架を背負ってきた患者の実態を明らかにすることはできないし、……結局は昭和39年1月の水俣工場の水俣病患者一覧表のように「家事全般の仕事をしている。外見なんともない」などという評価になってしまう。料理ができるというのが何ができるのか？来る日も来る日もつくれるものといったら野菜いためとみそ汁である。フライパンの縁で卵を割ってパッと落とすなどという器用なことができないので、目玉焼もできない。里芋の皮むきができないし、細かくきざむことができない。手はやけどと切り傷で傷だらけになっている。そうじといっても、部屋の真中だけで、いつもきたない。スカートの裾を縫い上げたというが、二時間もかかってい

るのに、みると10センチ幅ぐらいの縫い目でまるで子どものする裁縫である。さらに、いつもぶらぶらして、あっちに行っておしゃべり、こっちに行っておしゃべり、時間などおかまいなし。家のまわりを少しきれいにしょうとか、せんたくをしょうとか自ら思いつくことはまずなく、家人に言われてやっとやる。それもあんまりやかましく言われると、ブンと怒って出ていってしまう。このような症状は診察の場ではとらえにくいものなのである。私は、水俣病だからとか、裁判中であるからということでこのことを強調しているのではない。診察室の中でのみ症状をとらえたり、検査データのみで症度を考えたりしてきた私自身の、医学に対する反省でもある。（pp.229-30）

- (3) 代理人 仕事は？

患者H 北九州市で船員をしていました。

代理人 どんな仕事ですか？

患者H 舵とりと甲板そうじです。

これならまさに、一人前の立派な海の男のはずだ。医師の記録にも「治癒し、現在仕事をしている」と記載されている。くわしくみてみると、残念ながら、彼が乗っているのはエンジンのつかない舟で、5、6艘一緒につないで一番先のボートが引っぱっていく荷舟である。所定のところで荷物がつまれ、荷物が下され、舟底に水を流して洗う。このようなきわめて単純な作業である。それでも、彼は岸壁から舟に乗り移るのにしばしば失敗して海に落ち、他の患者と同じように手足は傷だらけなのである。時計が最近になってやっとわかるようになったが、二桁以上の計算ができない、字が読めない。視野は普通の人の三分之一。このようなその後遺症状の深刻さは、何回も面接した弁護士や、いつも付き合っている支援団体の人ですら的確につかんではいない。（pp.230-1）

- (4) 大学病院という権威を借りて、「診てやる」

という今までの姿勢が、不信へつながるあやまちであったことをしみじみと感じさせられたのである。(p.77)

- (5) 新潟大学の椿教授は、……「患者の訴えを細かく聞き、それを手掛かりに、総合的に判断していかなければならない。そのためには神経学の知識、他の病気をどれくらい知っているかということが大切である。」(p.234)
- (6) 専門家とうぬぼれていると、とんでもないことになる。むしろ問題の本質をつく問題提起は、しばしば専門以外の分野の人から出されることが多い……(p.126)
- (7) ……今、私たちが確実にできることは、自分たちの足で一人一人を拾いあげてまわること、それはきわめて非能率であるが最も確実な方法である……(p.135)
- (8) ……往診という調査方法はきわめて能率が悪かった。当時は交通の便が悪くて、午前中に一人しか診察できないこともしばしばであった。駅前で自転車を借りようとするので、「どこに行くのか」と聞くので、「茂道に行く」と言うと「茂道のどこを自転車にのるとかな」と言って笑われたものである。すなわち、茂道には自転車にのれる道がなかったのである。しかし、この経験は、のちに非常に私にとって役立った。さきに述べた水俣病研究の歴史や生活実態を、じかに見ることができたからである。そのうえ、市立病院ではあまり口をきかなかった患者の家族が、家ではいろいろと話をしてくれた。(pp.76-7)

### 3. 回答の収集法:

#### 1) 自然傍受法

#### 2) テーマ中心法・das zentrierte Interview [W. Viereck 1975: 9]

#### 3) 調査票法① das standardisierte Interview (= das strukturierte Interview) [W. Viereck 1975: 8]

#### ② das nicht-standardisierte Interview (= das nicht-

strukturierte Interview) [W. Viereck 1975: 9]

[W. Viereck 1975]=

Viereck, Wolfgang (1975) *Regionale und soziale Erscheinungsformen des britischen und amerikanischen Englisch*, Tübingen: Max Niemeyer Verlag.

N. B. 1

William Labov (1972) *Sociolinguistic Patterns*, Oxford: Basil Blackwell:

Observer's Paradox :

the aim of linguistic research in the community must be to find out how people talk when they are not being systematically observed; yet we can only obtain these data by systematic observation. (p.209)

N. B. 2

守田志郎(もりた・しろう) (1975: 昭50) 『村の生活誌』(中公新書395):

…どのお宅におじゃましても調査といった調子の質問をしたくはない。そういう方針、といえはそうもいえるが、理由があつてきちんと決めた方針ということではない。なにかの知識を得ようと思って農家におじゃまするということは、何年も前から私はやめてしまった。だから、「質問」は必要のないことなのである。ただおじゃまをしておしゃべりをし、もったいないことだが御馳走になり、ぶらぶらさせてもらい…、ただそれだけなのである。それを勉強だというふうにつよく意味づけることも、しないようになってしまった。ただ、そのときどき、私の心のなかにしみ込んでくるように感じるものがあつたり、痛いと感じたりするとき、それをまぎらわさないように大事にしたいと思い、耐えつづけたと思うのである。(p.132)

## §2 インフォーマントの条件

1. 【絶対条件】現住所で生まれ、現住所で育ち、生活してきた人。現住所以外からの嫁入り、養子等は不適。「同じ部落から嫁に来た」などというばあいは特に注意。

2. 年齢は 60 才以上をめやすとする。
3. 男女の別はとくに問わない。  
しかし、女性は、現住所以外から嫁入りされてきた人が多いから、注意を要する。
4. やむをえず在外歴のある人をインフォーマントに選ぶばあいは、次の範囲内で許容する。
  - 1) すくなくとも中学校を卒業する (15才) までは、現住所から移動していない人。
  - 2) 生まれてから15才まで現住所で生活し、それ以後一時移動した人は、その合計年数を 5 年以内とする。
5. 以上の条件を満たしている人でも、次のような方は遠慮しなければならない。
  - 1) 病弱な方。病氣療養されている方。
  - 2) 口の不自由な方。
  - 3) 齒が抜けていて、思い通りの発音ができない方、など。
6. 先の太平洋戦争で空襲のため、生家が焼かれた方の場合はつぎの条件 1)、2) を同時に満たしている場合は、インフォーマントとして願います。
  - 1) 生家が焼かれるまでは、焼かれた家で生まれ、育ち、生活していること。
  - 2) 生家が焼かれて以後、現在の家ですっと生活して、在外歴がないこと。  
その際、調査票には、次の①・②を忘れず記入しておくこと。  
①焼かれた家の所在地と焼かれた年月日を記入。  
②現在の家の所在地と現在の家に住み始めた年月日を記入。

### §3 インフォーマントの見つけ方

1. 町並みを見て、古くて大きな家がないか、注意してみよう。  
そのような家があれば、そこでは、二世・三世の家族が同居しているばあいが多いから。もしそこで条件に合った人がいなかったばあいは、事情を話し、条件に合った人を紹介していただくようお願いする。
2. 「米屋・酒屋・雑貨屋・食料品店」はないか？  
こういう職業のかたは、もともと地元の方

である場合が多い。しかし、大通り沿いより路地に沿った場合がもっと確率が高い。

3. 出先で昼食に利用した食堂、飲み物を買った店などで、事情を話し、条件に合った方を紹介していただくようお願いする。その点、自動販売機は何も教えてくれない。
4. 「ふるさとことば研究会」の名刺を必要に応じて使用するとよい。名刺は佐々木が用意する。

### §4 回答を得る時の注意

1. 質問を開始する前、インフォーマントには、
  - 1) 「家庭でくつろいでいる時に使うことば」あるいは、
  - 2) 「仲間と飲んでいる時に使うことば」あるいは、
  - 3) 「昔のことば」  
を覚えていただくように、お願いしておく。
2. 求める語形を、こちらで使わないようにするため、「謎々 (なぞなぞ) 式」で尋ねることを断っておく。できるだけ、誘導質問を避けるため。
3. インフォーマントが言い直した時は、最初の回答は消さないで、A→B のように記入しておく。
4. 標準語形とおもわれる回答があった場合は、かならず「これ以外の言い方・表現はありませんか？」と言って、さらに別な回答を求める。  
明らかに誤答とおもわれる回答があった場合も、同様である。
5. 二つ以上の回答を得た場合は、その違いをかならず尋ね、記入しておく。たとえば、
  - 1) 「新しい」・「古い」
  - 2) 「上品」・「下品」
  - 3) 「標準語」
  - 4) 「子供のころ使った」
  - 5) 「稀 (まれ)」
  - 6) 「ふつう」
  - 7) 「自分は言わなかったが、友だち(あるいは、周囲の大人) が言っていた」など。
6. 誘導質問で得た回答には、(sug)= suggest-

ed と付記しておくこと。

7. 回答が得られない場合は、(N.R.)= No Response と記入しておく。  
さらに、その原因が次のどれかを確認して、それも記入しておく。
  - 1) 該当する物・事がないから。
  - 2) 該当する物・事はあるが、その名前を知らないから。
  - 3) 該当する物・事も、その名前もあるが、忘れてしまった。
8. 回答者にわれわれの質問の趣旨を理解し、安心してもらうため、調査票の質問順は、  
① 3 頁の「つむじ」から最終頁まで。→② 2 頁 (表紙の裏) の「非言語」項目。→③ 1 頁 (表紙) の順がよい。
9. 調査項目以外の情報があったばあいは、最終頁の余白に書きこんでおく。
10. 同席者がいる場合は、
  - ① インフォーマントとの間柄を確認し、表紙に記入する。
  - ② 回答欄には、インフォーマントが言った回答、あるいは、インフォーマントが同意した回答を記入する。インフォーマントのこのような同意なしに、同席者の回答を記入してはいけない。
11. 調査の途中で、条件を満たさないインフォーマントであることが分かった場合は、失礼のないようにして、調査を切り上げ、条件にあったインフォーマントを見つける。
12. 調査が終わったら、あるいは、調査の途中で、インフォーマントの現住所を、携帯している五万分の一の地図上に、印 (しるし) をつけておく。インフォーマント自身が目の不自由などのため確認が出来ない場合は、おうちの人、あるいは近所の人をお願いして確認してもらう。

#### § 5 回答を調査票に記入する時の注意

1. インフォーマントの口からでたすべての情報を、そしてそれだけを記入する。調査者が思ったり、推測したしたりしたことを記入してはいけない。調査者が思ったり、推測したことを記入することが有益と考えた時は、最

終頁の余白に書き込む。

2. IPA (国際音声記号) は、その使用に自信がある場合のみ使うことが許される。自信がない場合は、ひらがな あるいは カタカナで記入すること。  
回答された語形そのものを漢字で表記してはいけない。しかし、回答語形にたいするインフォーマントの意見・説明には漢字を使ってもよい。
3. 「正しく」・「きれいに」・「わかりやすく」記入することを心がけなければならない。なぜなら、記入された情報は、今後いつ、どこで、誰によって読まれ、利用されるかわからないからである。学問的資料は、真摯に学問に携わる者の共有財産的性格をもっている。
4. 「黒」の「太字」の「ボールペン」を使用すること：  
鉛筆・細字用のボールペンは使わない。調査後、コピーをとると不鮮明になりがちだからである。インクは、雨など水にあたると、滲 (にじ) んで、読みとれなくなることがあるので、万年筆も使わないこと。
5. 回答された各語形には、高低アクセントを付記しておくことがのぞましい。

#### § 6 インフォーマントへのお礼のしかた

1. 調査が終了したら、丁重にお礼を言う。そして、できれば記念写真を撮らせてもらうと良い。もちろん、写真に撮 (と) られるのを嫌がるインフォーマントの場合は、無理じいはしない。
2. 礼状を書くときのために、宿舎に帰ったら、調査票の表紙に記入してあるインフォーマントの住所・氏名を自分のノートに記録しておく。
3. 調査日程がすべて終了し、帰宅したら、できるだけ早い時期に、忘れず礼状を出す。  
その時、調査終了直後に撮った写真を同封する。
4. 翌年の年賀状を出し、調査の時のお礼を再度述べる。

#### § 7 心構え その他



1. その土地のかたがたには、つねに教えを乞う気持ちをもって、誠実に接することが肝要である。
2. 道を歩いていて、その土地の人にあったら、軽く会釈（えしゃく）する程度の、気持ちのよいあいさつを心がける。
3. インフォーマント自身、またインフォーマントを紹介してくださる方などには、誤解を避けるために「調査」という言葉は使わないほうがいい。
4. インフォーマントに質問をする時、機械的に進めないよう注意する。相手の立場になっ

て質問を進めるよう心がける。

5. 質問は簡潔にして、できるだけインフォーマントに多くを語っていただくよう心がける。少なく話して、多くを聴け。
6. 派手な服装はしないこと。また、特に女性には軽装しすぎないように注意する。インフォーマントには、どこで、どんな姿勢で尋ねることになるか分からない。例えば、海辺・畑・田などで、お仕事のかたわら質問に答えていただくこともある。

以上

### 3 付録1

#### 臨地調査（フィールド・ワーク）

#### §1 主として文化人類学の立場から

「臨地調査」とは？（中根：35-6）

フィールドワークはたんにデータを収集することにあるのではなく、研究室ではできない思考の訓練の場であり、また、理論や仮説をテストする場ではなく、その構築へのプロセスとして欠くことのできないもの。「理論的訓練を十分つみ、最新の結果に通ずることは『先入観』をしょいこむことを意味しない。……調査地に多くの問題をもっていけばいくほど、また、事実から理論をくみだてるとともに、事実を理論との関係において検討する習慣をもっていればいるほど、彼は野外調査に適している」（マリノフキー B. K. Malinowski, 1884-1942）

「臨地調査」の重要性（中根：35）

英国の社会人類学の権威の一人であるマイヤー・フォーテスがアメリカの若い人類学者に向かって、「君はまだ手をよごしたことがないのだろう」（フィールドワークをしたことがない）といったが、凶星であった。その若い人類学者は自信ありげに理論的発言をさかんにしていたが、フィールド経験の豊かな人類学者からみると、その弱さが明らかに感じられたのである。

「科学的な調査」とは？（中根：21）

研究者が自ら原住民のなかで生活し、直接の

観察による十分検討されたデータに基づき、専門的な規準にてらして、法則と規則性を確立し、部族生活の骨組みを立証する。

従来の調査方法は？（中根：21-2）

- 1) 集められた個々のデータがどのような条件で観察され得られたものであるかが明確に記されていない。

N. B. ①物理学あるいは化学の実験的研究ならば、実験の仕方の詳細な説明、使用した器具、観察の方法やその回数、それに費やした時間などについての正確な記載なしに、その結果が役にたとうなどとは夢にも考えられない。

N. B. ②観察を行い、情報を集めたさいの状況の記載のある民族学的資料だけが、学問的な価値をもつ。

- 2) 観察結果そのものと、研究者の常識や推論による説明とが明確に分離されていない。
- 3) 社会学でよく行われるようなクエスショナによるものとか、民俗学でしばしばとられるような物知りといわれる人（この種の人はいどの社会にもいる）の話をきく、といった方法は、主要部分ではない。

望ましい調査方法は？（中根：23-）

- 1) 単なる直接質問はできるだけ避けて、調査者のもっとも知りたいと思うことに迫るという方法が理想的。

- 2) 相手がかまえないで自然に表出するプロセスをとすということが、よりよいデータを得る方法。この意味で、フィールドワークはできるだけ調査者一人で行うのが望ましい。被調査者からみても、調査者が二人以上の集団であると、どうしても近づきにくい場をつくる。
- 3) ミクロ研究は、マクロの背景をもって、いっそう問題の性質を明確に把握することができる。
- 4) 文化的距離による detachment (対象と自己の分離) こそが、すぐれた科学的な研究を生み出さう条件。偏見や優越感はむしろ安易な共鳴、過度の同情などと同様に、対象に自己を安易につなぐあまさを前提とするものであり、detachment (対象と自己の分離) とは相いれないもの。

## §2 主として言語学の立場から

- 1 求める言語資料——現在および過去における自然な日常生活での言語行動——
- 2 インフォーマントの文化に合わせる、あるいは少なくとも、インフォーマントの文化に逆らわないこと。
- 3 インフォーマントの文化に抵触する可能性の低いものから尋ねていく。
- 4 インフォーマントと聞き手との信頼関係が不可欠
- 5 インフォーマントにわれわれの質問の目的を理解していただく——「調査」ということばは口にしないこと——
- 6 他人の立場にたった「誠実さ」こそ成功の道

## 参考書

- 池庄司敏明 (いけしょうじ・としあき) (1993) 「衛生昆虫学のフィールドから」、『UP』No.245、東京大学出版会、pp.1-7 (フィールドワークの現在3)
- 磯崎 行雄 (いそざき・ゆきお) (1993) 「フィールド好き・フィールド嫌い」、『UP』No.249、東京大学出版会、pp.1-8 (フィールドワークの現在6)
- 岩田 誠 (いわた・まこと) (1993) 「臨床医学におけるフィールドワーク」、『UP』No.248、東京大学出版会、pp.1-9 (フィールドワークの現在5)
- 大塚柳太郎 (おおつか・りゅうたろう) (1993) 「ニューギニア人の生存の原点をさぐる」、『UP』No.244、東京大学出版会、pp.10-6 (フィールドワークの現在2)
- 片山 一道 (かたやま・かずみち) (1993) 「叙情と記録の相剋」、『UP』No.243、東京大学出版会、pp.1-7 (フィールドワークの現在1)
- 加納 啓良 (かのう・ひろよし) (1994) 「チョマル・プロジェクト (ジャワ農村史のフィールドワーク)」、『UP』No.255、東京大学出版会、pp.23-30 (フィールドワークの現在10)
- 茅根 創 (かやね・はじめ) (1993) 「サンゴ礁と大気二酸化炭素」、『UP』No.250、東京大学出版会、pp.1-8 (フィールドワークの現在7)
- 子安 和弘 (こやす・かずひろ) (1994) 「野生動物のフィールドサイン／足跡を追う」、『UP』No.261、東京大学出版会、pp.1-7 (フィールドワークの現在13)
- 佐藤 哲 (さとう・てつ) (1993) 「巻貝の殻を集める魚」、『UP』No.252、東京大学出版会、pp.1-7 (フィールドワークの現在8)
- 佐藤比呂志 (さとう・ひろし) (1993) 「地層を読む眼」、『UP』No.247、東京大学出版会、pp.1-7 (フィールドワークの現在4)
- 生源寺真一 (しょうげんじ・しんいち) (1994) 「条件不利地域の農業をたずねて」、『UP』No.259、東京大学出版会、pp.25-30 (フィールドワークの現在12)
- 鈴木 和雄 (すずき・かずお) (1993) 「開花パターン、訪花昆虫、種子食昆虫の観

- 察から」、『UP』No.253、東京大学出版会、pp.10-15(フィールドワークの現在9)
- 中根 千枝(なかね・ちえ)(1987)『社会人類学／アジア諸社会の考察』、東大出版会、pp.21-39(フィールドワークの意味)
- 西田 利貞(にしだ・としさだ)(1995)「チンパンジーの食べ物を試食する」『UP』No.271、東京大学出版会、pp.6-11(フィールドワークの現在14)
- 藤原 与一(ふじわら・よいち)(監修)(1984)『方言研究ハンドブック』、和泉書院

## 付録2

方言調査の方法：対話

平成6(1994)  
方言調査方法論

## 参考文献

- 三國一郎(みくに・いちろう)(1984)  
『話術—会話と対話』筑摩書房

## 会話とは？

本当に聞きたいことを問い、その答えを心をこめて聴く。聴いたことの中から、また新しい問いが生まれ、それについてさらに問いかける。こんどは、こちらからの問いに答える相手の頭の中に、別の新しい発展がめばえ、その中に全く予想しない問いが発生して、それがこちらにはね返ってくる。その問いのおもしろさに惹かれて、こんどはこちらも答える立場に変わり、充分考えた上で答えを投げる……こういうことの連続(p.25)

- ラ・ロシュフコー「よく人の言うところをきくこと、あまりしゃべらぬこと」(27)
- ラ・ブリュイエール「自分が話すよりも、他人に話させて、それを黙って聴いている」(28)

他人の言に耳を傾け、むりに発言しないほうが良い、(33)

話すことへの人間の無反省、エスカレートする

- 吉岡 基(よしおか・もとい)(1994)「イルカの人工受精をめざして(水族館をフィールドとして)」『UP』No.256、東京大学出版会、pp.16-24(フィールドワークの現在11)

BAUGH, John (1993) Adapting dialectology: The conduct of community language studies. In: American Dialect Research ed. by Dennis R. PRESTON, Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company, pp. 167-191

一方の人間のおしゃべり、この功罪はこれから将来にかけて、次第にはっきりしてくるでしょう。(34)

ことばには、またことば遣いには、その人その人の運命が、たしかに投影しています。その人が生きてきた人生の投影図、それがその人のことばであり、ことば遣いであるといえましょう。(51)

相手のはなし方やはなし癖に、当人の背負っている運命がにじみ出ていることを考える必要があると思います。(51)

人間の個性は、生まれつきということもありますが、より多くは成人するまでの環境や条件によって影響され形づくられる、(52)

私が放送出演者として、「面接」し「面談」し「聴取」した相手の人数は、まず一千人にはなる……このような経験は、人と会い、人と話しながら、人の話すことを、その内容に特別の重点をおきながら「聴取」する経験であった(67)

どんな簡単な質問のときでも、「きく(質問する)」立場の人間は、極端に言えば、ききたくてききたくてたまらない、という、いわば「好奇心の固まり」のようになって質問する、それが相手への親切というものであり、それが人間同士の「礼儀」というものである(73)

まず「訊く」ことからはじめますが、そのうちに相手が答えること話すことを「聞く」ようになります。しかし、次第に話しが大切な点に触

れるてくると、やおら一膝（ひとひざ）のり出して、こんどはじっくりと「聴く」態度に変わ

ってきます。(74)

### 付録 3

#### OBSERVER'S PARADOX 平成 6 (1994) 方言調査方法論

#### REFERENCES

BAUGH, John (1993) Adapting dialectology:

The conduct of community language studies. In: *American Dialect Research* ed. by Dennis R. PRESTON, Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company, pp. 167-191

- 1 求める言語資料——現在および過去における自然な日常生活での言語行動——はどうしたら得られるか？

How does the fieldworker record speech without distorting the very data (s) he seeks to collect? (p. 178)

- 2 インフォーマントの文化に合わせる、あるいは少なくとも、インフォーマントの文化に逆らわないこと。この点では、言語調査は他のフィールドワークより恵まれている。

Familiarity with the culture and acceptance by informants is essential to successful fieldwork. Unlike interviews by spies, the police, or news reporters, linguistic interviews can cover a wide range of topics that need not threaten informants. (178-9)

A considerable amount of research about the community needs to be completed prior to fieldwork, otherwise the potential for informant alienation runs high. (180)

- 3 インフォーマントの文化に抵触する可能性の低いものから尋ねていく。

Indeed Labov (1984) advocates the gradual introduction of topics, beginning with non-threatening childhood experiences and moving toward dangerous episodes, culminating with questions regarding deeply

personal experiences. This procedure allows the fieldworkers to monitor interviews in progress and shift topics when necessary to maintain informant rapport. (179)

- 4 インフォーマントと聞き手との信頼関係が不可欠

Trust is an important element in overcoming the observer's paradox. If informants are suspicious of fieldworkers, then they are not likely to be cooperative. (179)

- 5 インフォーマントにわれわれの質問の目的を理解していただく——「調査」ということばは口にしないこと——

When informants understand their role in linguistic research and the motivation behind the fieldwork, they are more likely to support our efforts. This was my experience in the black community. Most of my informants recognized the value of oral traditions in African American culture, and it has always been a simple matter for me to explain my motives to prospective informants. They also come to understand the central role they play in linguistic research and the paramount importance of their data to the reconstruction of the oral historical record. (179)

- 6 例えば録音機を使ったときのインフォーマントの反応は何を意味するか？

Wolfson (1976) mentions that her informants made repeated reference to the tape recorder. I too have encountered similar comments from informants, but it has been my experience that attention to recording equipment varies during interviews. At times, particularly when potentially embarrassing topics are discussed,

informants may occasionally refer to the recording equipment; they recognize the documentary nature of our research, and periodically express concern regarding confidentiality. This strikes me as a very natural response, particularly when one conducts fieldwork among oppressed people.

The extent to which informants tend to ignore recording equipment in favor of speaking freely is a direct reflection of the extent to which fieldworkers have suc-

cessfully overcome the observer's paradox. [Baugh 1993: 179]

I will not address the ethical issue of surreptitious recordings, nor will I pursue discussion regarding secret recordings as a solution to the observer's paradox. (180)

#### 7 他人の立場にたった「誠実さ」こそ成功の道

Honesty may lead to the kind of rapport that can overcome the observer's paradox. (180)

#### 追悼・また逢う日まで

ウィレム・グロータース博士は1999（平成11）年8月9日（月）夕方6時頃、かねて入院されていた中野区江古田の慈生会病院の一室で息を引き取られた。満88歳だった。

東京湾岸言語調査は、先生のご指導をうけた房総半島南端の調査が出発点だった。わたしが言語地理学に入ったのは理論より実践のほうが先だった。なんでも吸収しようと思うあまり、父親の胸を借りるような気持ちで（じっさい平成元年に亡くなった私の父と同じ歳であった）、遠慮なく何でも執拗に納得のいくまで尋ねた。だから、心底怒らせたことも再三ではない。しかし、真正面から受けてくださる方だった。実に懐の深い人だった。わたしのようなこんなむずかしい男を救ってくださった恩人である。

葬儀の最後は「また逢う日まで」だった。声を限りに歌った。涙がとめどもなく流れてしかたがなかった。